

コープ災害ボランティアネットワークニュース

第45号

2010年11月発行
東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティアネットワーク幹事会
03-3383-7800

第5回 防災まち歩き体験

減災・防災の視点で、東京都生協連会館の周辺の“まち”を歩きました。

災害時を想像しながら、役立つ物や場所を確認するとともに、ところどころでクイズを出し、みんなで考えあいながら歩きました。普通に歩けば15～20分ほどのコースですが、約1時間ほどかかりました。



東京災害ボランティアネットワーク(東災ボ)の上原事務局長より。地域の環境に気づき、地域との普段のつながりを大切に、この講座で学んだことを自分の住んでいる地域で活かして欲しいとのお話がありました。

上原泰男(東災ボ事務局長)

最強・最堅のライフラインは人のネットワーク。壊れることのないライフラインを地域でつくって!



講師を務める東災ボの福田信章さん

“防災まち歩き”

気づいたことや疑問をサポートになげかけ、色々なことを考え、想像しながら歩きました。



数箇所のチェックポイントで、防災倉庫の鍵は誰が持っているのかななどの正解のないクイズを紙芝居のようにして出し、みんなで考えあいました。写真は、宮桃防災公園

防災のまち歩き体験

<目的>

- まちを「防災・減災」の視点で見て、「災害時のまち」をイメージする。
- 役割や個性の違う多くの人とまちを見て、仲間(コミュニティ)をつくる。

<効果>

- 防災・減災資源、危険箇所を確認でき、まちの災害時の強みと弱点がわかる。
- まちの特徴がわかり、多くの人と仲良くなり、自分たちは自分で守る意識が生まれる。

<まちを見るポイント>

- 消火栓や防火水槽などの防災資源を探そう。
- 消防車・救急車が入れるか、電線・電柱は多くないか道路を見てみよう。
- その他災害時に役立つものを探してみよう。
- 気づいたことを地図にメモしておく。

マップづくりに挑戦!!

マップづくりの実践

- まずは、主要幹線道路と線路を書く。
- 避難できそうな、便利な場所・機能がある箇所を囲う
- 消火に役立つ場所や物(学校のプールや河川)をチェック。
- 歩いたルートを書く。
- 歩いた地域の目印になるような建物などをチェックする。
- 自分たちが気づいたチェックポイントを地図上に落とす。
- まちで気に入った・残したい場所・物・雰囲気を書き出す。
- 地域の特徴を紙に書く。



まち歩きを振り返りながら、地図にいろいろな情報を書き入れます。
・消火器がいたるところにあったよね。
・細い路地がいっぱいあった。
・井戸が結構残っている。
書きたいことがいっぱいあって、時間が足りない!

各グループからの発表
それぞれコースが違い、他のグループの発表にも関心を持って聞きました。



“防災まち歩き”を振り返りながら、マップづくり!



避難場所を示す
掲示板。どんな
資機材があるか
も掲示してあり
ます。



元小学校
の敷地内
に送水栓
が2つある。



ビルの1階に
あった消化栓。



地域の避難場
所。元桜ヶ丘小
学校。この日は
日赤の奉仕団
が訓練を行っ
ていた。

お稲荷さんと公民
館が一体化。脇
には井戸があり、
風情があるた
たずまい。

大きな桜の木が
ある公園には、
区が設置した災
害用井戸があり
ます。



民家の塀に、
避難場所と井
戸の表示が。



防災倉庫

防災広場には防
災倉庫の他にも
地下に防火水槽
がある。



防火水槽

電柱には避難場
所の案内、道路
には消火器が
いたるところに
あります。



東京都生協連会館

受講者の感想

- ・この体験を踏まえて、自分の住む地域で、避難所などを確認したいと思います。
- ・自分の住んでいる地域にも関心が深まりました。
- ・我が家の避難場所も再確認です。
- ・中野区に住んでいても気がつかないことばかりでした。
- ・ファシリテーターのおかげで、とても内容のあるまち歩きになりました。
- ・紙芝居のおかげでわかりやすく感じた。

ふろく

東京都生協連は、東京都と「災害時応急生活物資等に関する基本協定」を結んでいます。

そこで、東京都の関連部署と東京都生協連、会員生協の災害・危機管理部署の職員との報告・意見交換を行う連絡会議を設けています。

その連絡会議が去る11月15日(月)に行われ、生協からオブザーバーを含め15名が参加しました。

Cコース